



菅波 茂

国際協力と国際貢献の英語は International cooperation である。国際貢献とは「明確なメッセージを伴った国際協力」と理解すればわかりやすい。従来の日本の国際協力はメッセージなき国際協力だった。不言実行と有言実行の違いでも言えようか。

岡山発国際貢献。世界が必ずとする岡山。そのメッセージは「人間の安全保障」である。98年12月、当時の小淵恵三総理が、第1回「アジアの明日を造る知的対話」において「人間の安全保障」についての考え方を表明した。貧困・環境破壊・紛争・難民問題など、人間に対するさまざまな脅威に苦しむ人たちの状況を改善することこそ「人間の安全保障」を実現することである。

では、実現された状況とは。

具体的には次の5点である。夜間に一人歩きできる治安、就職先に代表される食べられること、平均寿命に示される健康であること、大学進学率が表す教育を受けられること、文化として受け継がれていく生きる喜びである。よくよく考えてみれば、日本は「人間の安全保障」を実現している数少ない国である。理由としては単に経済的成功を収めたからだけでは足りない。国は豊かでも上記の5点が実現できていない国はたくさんある。日本は「人間の安全保障」を実現するために多くの社会システムやソフトウェアを構築した経験と実績がある国である。

国際貢献産業

岡山の地に「国際貢献産業」という新しいコンセプトが登場した。「人間の安全保障」のメッセージを生かした国際協力による地域振興を産業として考えるということである。簡単に言えば「国際貢献と地域おこし」である。技術

力による緊急人道援助物資の開発などほわかりやすい。一方、私たちが当たり前と

思っている身近な環境の中に発展途上国からみれば、あつと驚くことがたくさんある。例えば交番制度である。日常的に地域住民と情報交換することがどのくらい治安に貢献しているのかはかりしれない。治安は警察だけでは守りきれない。警察と地域住民の協力体制こそ「夜の一人歩き」を可能にしている。シンガポールは交番制度を取り入れた国である。アフリカのザンビアの国家警察長官も交番制度の視察に来春には岡山に来ることを希望している。

平均寿命に関与している健康保険や介護保険制度にもつづいた施設、ソフトウェア、そして製品は世界に輸出してもおかしくない。輸出しなくてもできないのが町内会を中核とした地域住民の相互扶助の世界である。「地域力」

こそ人間の安全保障実現の基本である。海外からの視察研修も重要なプログラムのなる。結論から言えば、システムと製品のパッケージが国際貢献産業の内容である。岡山における「人間の安全保障」実現の歴史の説明が最大の説得力となる。歴史とは時間である。日本の経験を短縮した時間で海外に伝えることも技術である。

自分たちが住んでいる地域に誇りを持つことこそ、他の地域や他の国に対する強力な磁場となる。人間の安全保障の具体的項目に該当する「国際貢献モデル地区」指定があってもいい。指定により国際貢献産業は国際観光産業にもなりうる。あるいは地域力に富んだ非都市部の振興策にもなる。自分たちの住んでいる地区の価値を知ることこそが、世界が必要とする岡山への第一歩である。(アジア医師連絡協議会代表)